

大人と子どもの継続的な活動が絆を深め、活動を広める

足尾和太鼓チーム “銅” あかがね (日光市：足尾地区)

スタッフ構成 (メンバー構成)

足尾地区を中心に、大人 7 名、高校生 4 名、中学生 6 名、小学生 9 名 計 26 名

主な活動

- (1) 定期練習
 - * 基本的に毎週水・金曜日午後 7 時 30 分から。演奏会が近づくと週 3 回
- (2) 演奏会
 - * 足尾地区内はもちろん、依頼によって県内・外で演奏
- (3) 小学校での指導
 - * 大人のメンバーが、足尾小学校 6 年生に対して太鼓の演奏指導 (総合的な学習の時間、音楽)

立ち上げの経緯

活動立ち上げの経緯

- ・「足尾和太鼓チーム“銅”」は、日本足並み会〔(旧)足尾町・足利市・北海道足寄町・愛知県足助町・山梨県(旧)足和田町)の和太鼓曲「足並みの響き」をマスターするために、平成 5 年に設立。
- ・平成 13 年度太鼓教室参加者募集で、大人 10 名、中学生 5 名、小学生 5 名、計 20 名が参加。

活動立ち上げの工夫

- ・公民館の和太鼓教室参加者が中心に和太鼓チームを結成。現在、自主的に活動。
- ・演奏会をたくさん実施することで練習に盛り上がりができる。
- ・大人が仕事の都合で出られないのでは、子どもの練習にも熱が入らない。できるだけ参加するようにした。

継続・充実のためのポイント

継続のコツは…？

- ① マンネリ化を防ぐための配慮
 - ・ いろいろな演奏会を目標に練習する。
 - ・ 子どもが練習に飽きないように変化をつける。
 - ・ いつも笑いがあるようにする。
- ② 日常的な子どもへの配慮
 - ・ 言葉や態度など、本人が見本となる。
 - ・ 子どもに普段と変わったところがないか、大人はアンテナを高くしてよく観察する。

活動に広がりをも…！

- ① 新ユニット結成
“銅”本体の活動とともに、平成 16 年から女性だけのユニット“とちおとめ”を結成し、活動を展開している。
- ② 小学校での指導
今年度 (平成 18 年度) から“銅”メンバーの大人が指導者となり、足尾小学校の 6 年生に太鼓の演奏指導を始め、日光地区学校音楽祭や日光市民文化祭足尾足尾芸術祭で演奏を披露した。



女性ユニット“とちおとめ”
(平成 18 年度足尾芸術祭にて)

活動例

定期練習

毎週水曜日と金曜日（演奏会が近づくと火曜日も）、足尾にある銅ふれあい館に集合して練習しています。



気合いの入った練習



全体練習の一コマ
大人も子どももチームの仲間



練習の合間に和気あいの集合写真

演奏会

依頼に応じて、県内外の会場で演奏しています。

今年度は県民の日イベントをはじめ、群馬県の介護施設訪問や関東近県A L T（外国語指導助手）交流事業など、福祉から国際交流まで、様々な分野で演奏活動をしています。



通所介護施設で演奏



A L Tの方々と交流

平成 18 年度演奏実績（4月～10月）

No.	期日	内 容
1	4/15	通所介護施設慰問（群馬県桐生市）
2	4/16	呑龍寺花まつり
3	4/22	関東近県A L T交流事業 in 足尾
4	6/11	県民の日イベント（日光大谷川公園）
5	6/18	土砂防災防止月間イベント（群馬県太田市）
6	7/21	太鼓教室（足尾小学校体育館）
7	7/22	太鼓教室（足尾小学校体育館）
8	7/23	国体関東ブロック山岳競技表彰式
9	9/28	本山小学校昭和15年度入学生同窓会
10	10/1	すかい福祉まつり
11	10/7	M S C C 東京オータムラリー 2006
12	10/15	商工会青年部イベント
13	10/29	第30回足尾芸術祭ステージ部門

小学校での指導

大人のメンバーが、足尾小学校6年生に対して、総合的な学習の時間、音楽の時間に太鼓の演奏指導をしています。

「あかがね太鼓少年隊“きずな”」を結成した6年生は、練習の成果を日光地区学校音楽祭や日光市民文化祭足尾芸術祭で披露しました。



練習の成果を発表する
「あかがね太鼓少年隊“きずな”」

大人と子どものすがた

大人のメンバーは…？

私たちは、足尾に新しい風をおこしたい、と和太鼓チーム“銅”を結成しました。子どもたちにも参加を呼びかけ、子どもの発想を大切に、役割を分担して活動し、幅広い世代が人間的にふれあい、知り合い、声を掛け合うことで、信頼感を深めることを目指しました。

私たちの目的は「輝く人間づくり」、そして、手段は「太鼓」です。「輝く人間」とは、夢と希望を与えられる大人、夢と希望をもてる子ども。このような人間を育てることが私たちの夢であり希望です。

子どものメンバーは…？

私が“銅”に入るのは2年前です。みんなが一斉生命太鼓をたたいているのを見て、カッコいいと思って入りました。太鼓演奏にデビューしたときは、緊張して下を向いてしまいましたが、発表を重ねていくうちにだんだん自信もついてきました。

今年からは小学校の6年生27名全員で練習を始め、足尾芸術祭や日光地区学校音楽祭に参加して「足並みの響き」を演奏しました。みんなで演奏すると“友情の響き”になりました。

私たちが太鼓のできるのも大人の人たちのおかげです。これまでありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。（小学6年生）

自治会が中心となって、地域ぐるみで子どもをはぐくむ

高勢町地域の子ども支援（真岡市：高勢町）

スタッフ構成

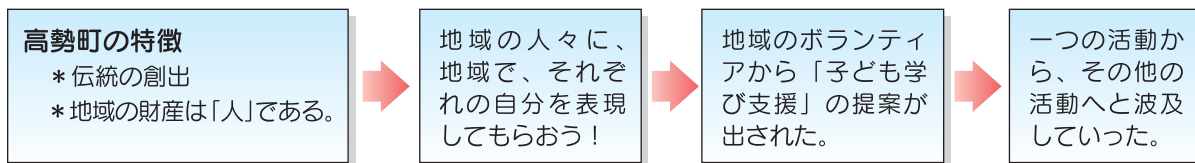
真岡市高勢町地域住民 73 名

主な活動

- (1) 親子で絵本を楽しむ会
 - * 地域の未就学児を対象に、公民館において絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、紙芝居などをボランティアが行っている。
- (2) 交通安全（朝の交差点誘導）
 - * 子どもたちの登校時刻に合わせて、地域のボランティアが交差点等に立ち、「あいさつ」を交わし、地域の子どもたちとのコミュニケーションを図っている。
- (3) 安全・安心パトロール
 - * 子どもたちの下校時に、学校から地域までの間に 25 名の付き添いが子どもたちを見守っている。
- (4) 子ども学び支援
 - * 学校の長期休業中に、子どもたちの学習への興味関心を高める学習活動や体験活動を地域の大人が指導者となり支援している。
- (5) 子どもの居場所づくり
 - * 下校後、家で一人になってしまう子どもたちが、公民館で宿題をしたり遊んだりするのを地域のボランティアが見守っている。

立ち上げの経緯

地域における人と人（子ども同士、大人同士、大人と子ども）のふれあいを求め、自治会が中心となって立ち上げた。



継続・充実のためのポイント

継続のコツは…？

【その一】
組織を緩やかにし、誰でもいつでも出入りできるようにしている。

【その二】
個々の活動において拘束をしない。(例えば、パトロールの時間なども自由)

課題の克服は…？

【その一】
スタッフが随時話し合いをし、共通理解を図り、様々な問題に対してみんなで解決している。

【その二】
保護者への啓発活動も行っている。(説明会など)

予算は…？

活動する経費の大部分を
自治会費・市の地域作り補助
費からまかっている。
さらに、
国の地域子ども教室の予算で
運営している。

予算がなくても、熱い思いをもった人がいればできます。

活動例

『子どもの学び支援』

子どもたちの長期休業（夏休み等）を利用して、地域のボランティアが様々な学びの支援をする。



教室名	月日	場所	参加者数
木綿工房見学	7/26	木綿工房・真岡物産館	10名
アトリエ	7/27	高勢町第2公民館	15名
手芸	8/2	高勢町第2公民館	6名
料理	8/3	高勢町第2公民館	25名
肝試し	8/4	伊勢崎雑木林	81名
書道	8/7・8	高勢町第3公民館	14名
寺子屋	8/9	高勢町第2公民館	14名
木工	8/17	高勢町第2公民館	4名
切り絵	8/18	高勢町第2公民館	7名
工作	8/19	高勢町第2公民館	21名
ザリガニ釣り	8/20	根本山	14名
夏休み宿題コーナー	8/23～25	高勢町第2公民館	8名

【平成18年度夏休みに実施された教室】

子どもの様子をちょっとのぞいた保護者が、
「これなら自分にもできる！」
とボランティアとして活動を始めてくれた事例も。

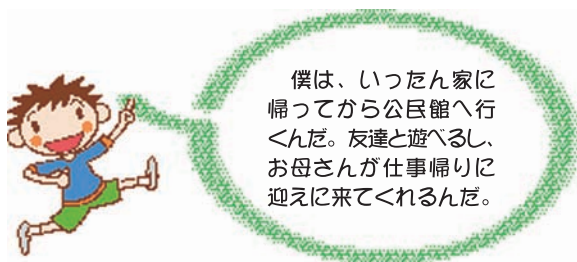
参加した子どもたちの「楽しかった」という声が届き、参加する子どもの数が急激に増えています。

地域には、想像以上に様々な能力を持った方がいらっしゃいました。毎回、ボランティア希望者の数は増えています。趣味から学びまで、幅広い教室があり、地域の教育力を子どもたちのために生かしています。

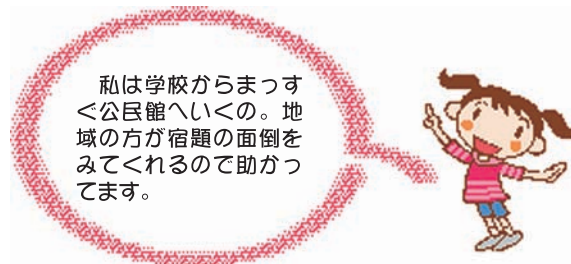
『子どもの居場所づくり』

下校後の子どもたちに公民館を開放することにより、遊びの場、学びの場、そして安全を確保できる場を提供する。

地域のボランティアの方々が、一緒に遊んだり、見守ったり、時には宿題を一緒に考えたりしています。



僕は、いったん家に帰ってから公民館へ行くんだ。友達と遊べるし、お母さんが仕事帰りに迎えに来てくれるんだ。



私は学校からまっすぐ公民館へいくの。地域の方が宿題の面倒をみてくれるので助かっています。

大人と子どものすがた

スタッフは…？

「子どもたちとかわかることは、自分自身の学びになるんだね！」

「もっと子どもたちが喜び、意欲的に学べるような企画を考えよう！」

子どもたちは…？

「今まで一緒に遊ばなかった同級生と話をしたり、遊んだりできてよかった！」

「お兄さんやお姉さんって、いろいろ教えてくれたりして優しいんだ！」

「小さい子の面倒を見てみると、なぜだかうれしくなるんだよね！」

地域の大人たちは…？

「私にもできることがありそうだな？来年からはスタッフになって一緒に活動しよう！」

「近所の子どもが、親戚の子どものように思えてきたな！」

地域全体は…？

「地域の子どもの顔がわかるようになって、お祭りに行くのが楽しみだな！」

「ちょっと散歩をただけで、たくさんの人にあいさつをされたよ。うれしいもんだね！」

子どもを地域の宝として育てる！

塙・星の宮の宝を育てる会 （益子町：塙・星の宮地区）

スタッフ構成

塙・星の宮自治会ボランティア 21名

主な活動

(1) 地域学習ワークショップ

* 主に土曜日を中心に、地域のボランティアが様々な講座を開催している。

前期と後期の2回にわけて、学校を通じて講座開催の通知を出し、参加者を募集している。活動は、講師の自宅や地域の公民館で実施している。

(2) わくわく体験講座

* 夏休みなどの長期休業の中に一定期間を設け、地域の公民館で様々な体験講座を実施している。

立ち上げの経緯

町民大学を卒業した地域住民
* 「塙・星の宮の様々な宝を守り育てよう！」

「塙・星の宮の宝を育てる会」の発足

「塙・星の宮の宝の一つに子どもがあげられるのではないかな？」

塙・星の宮の宝とは…？

- * 地域の伝統
- * 地域の遺跡
- * 地域の歴史的建物 など

「地域の宝である子どもをみんなで育てよう！」
と、地域の教育力を生かしたワークショップをスタート

継続・充実のためのポイント

継続のコツは…？

【その一】
子どもを集めるためには、情報の提供が重要となる。そのためにも、学校との連絡を密にし、情報交換をよく行っている。

【その二】
講座を実施するボランティアが肩肘張らずに、できることをできる範囲の中で活動している。



課題の克服は…？

【その一】
学校と『育てる会』の良い関係を維持すること。

【その二】
継続するためには指導スタッフの入れ替えが必要である。そのため、平成19年ど実施後、いったん解散することを決定した。



予算は…？

指導スタッフが、一人あたり500円を負担し、印刷費等に充てている。募集案内等の配布は各学校に依頼。

+
自治会からの助成（20,000円）主にこどもたちのおやつ代に。

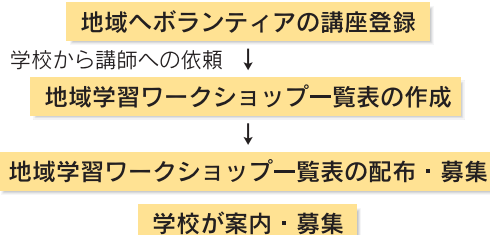
自宅で実施するワークショップでは指導スタッフが子どもたちの飲み物やおやつを負担している。

* 地域の子どもが、自分の孫のような存在に！

活動例

『地域学習ワークショップ』

主に土曜日を中心に、地域のボランティアが様々な体験活動を支援する。
実施までの流れは…（学校も主体的にかかわっている）



開催講座名	開催日	実施場所
牛とのふれあい	10/14～合計 1回	小菅先生の自宅
三角ベースボール	11/ 1～合計 4回	星の宮公民館
紙飛行機を飛ばそう	10/21～合計 5回	矢代先生の自宅
地球温暖化と太陽光発電	10/21～合計 2回	大深先生の自宅
簡単なお菓子作り	10/21～合計 4回	大深先生の自宅
木工細工	10/ 7～合計10回	小林先生の自宅
折り紙工作	10/14～合計 5回	上野先生の自宅
お手玉作りと遊び	12/ 9～合計 3回	高島先生の自宅
季節の花を飾ろう	11/11～合計 4回	近藤先生の自宅

【平成18年度後期開催講座】



『わくわく体験講座』

夏休みなどの長期休業に、様々な講座を実施している。
ここでは、『地域学習ワークショップ』に参加できない子どもの参加が見られる。

大正琴を弾いてみよう	お手玉作りと遊び方
地球温暖化と太陽光発電	雨巻山へ登ろう
飛ばしてみようプロペラ機	紙飛行機を飛ばそう
季節の花を飾ろう	竹とんぼ作り
折り紙細工	遊びの広場
読み聞かせ	埴公民館で活動しています

【平成18年夏休みわくわく体験講座】

これ以外にも子どもたちから
*料理教室 *マジック
*オカリナ *ギター
*習字 *虫の標本作り
などの要望があり、
地域の教育力を発掘している。

大人と子どものすがた

スタッフは…？

「今までは、意識して挨拶をしていたが、最近ではごく自然に挨拶をするようになったなあ。」

(地域人間関係の構築)

「学校の敷居が低くなったように感じるなあ。」

子どもたちは…？

「地域の大人の人の顔がわかってきて、いろいろ話せてうれしいな。」

大人たちは…？

「地域の方々に指導してもらったことを話題に、子どもとの会話が増えました。」

(例えば、子どもと何日もベーゴマ回しの特訓をした。など)

「地域の方々との距離がグッと縮まり、いろいろな話をするようになりました。」

地域全体は…？

「地域に関心を持つようになり、住んでいる地域がさらに良くなるようにと思うようになりました。」